NAGOYA CITY UNIVERSITY HOSPITAL　名古屋市立大学病院

さくらほっとNEWS

vol.35
平成28年春号

医療安全管理室のメンバー

2 特集　患者さんの安全を守るために
3 名市大病院のチカラ vol.3
4 転びにくい歩き方・杖の使い方
市民公開講座・セミナーのご案内
ご寄附のお願い（さくら基金）

国の方針に基づき、地域医療連携を推進しています。

国の方針▶医療機関の機能分化

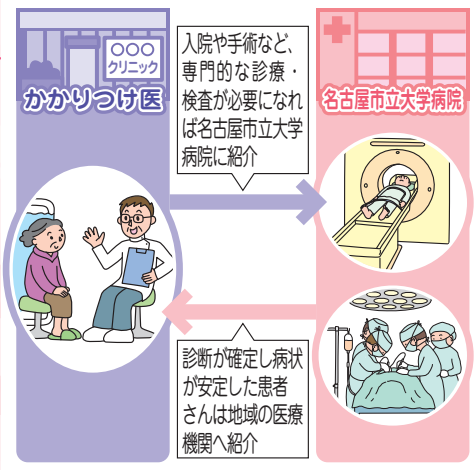
特定機能病院（名古屋市立大学病院）
入院や手術などの専門的な診療・検査を含む高度先進医療を担当

地域の医療機関（かかりつけ医）
風邪などの日常的な病気や症状が安定した慢性疾患などの患者さんに対する医療を担当

地域医療連携の推進

診断が確定し症状が安定した患者さんは地域の医療機関にご紹介しております。

※症状が悪化した場合などは、改めて名古屋市立大学病院へ紹介されます



特集

患者さんの安全を守るために

昨年、大病院における「医療安全」が大きな注目を浴びました。高度先進医療の開発・発展は大病院における重要な使命のひとつですが、そのために患者さんの生命がないがしろにされるということはあってはなりません。

当院では、そのようなことが起こらないよう、医療安全管理室を中心にさまざまな取り組みを行っています。

～『安全で開かれた医療』の実現に向けて～

村上医療安全管理室長

当院の理念にもある「安全で開かれた医療」を実現させるため、医療安全管理室は、医療行為に関するすべての安全を担保すべく、日々努力しています。人間である以上、誰でもミスを犯す可能性がありますが、その可能性や発生したアクシデントをいかに小さくするかが重要です。そのために下記に挙げるさまざまなことに取り組んでいます。

医療安全に完成はありません。日々の業務における小さな疑問や気づきを大切にし、少しでも当院の医療安全の質を上げられるよう、今後も尽力していきます。

患者さんの安全を守るための取り組み

医療安全に関する意識・行動を統一するためにマニュアルを作成し、各部署に配布・周知しています。(ポケット版は全職員に配布)

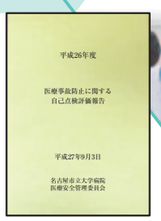
外部から講師を招いたり、重大事例を全職員が共有したりするなど、職員の意識向上に向けた様々な研修会・講演会を実施しています。

患者誤認防止、５Ｓ(整理・整頓・清掃・清潔・しつけ)、医療機器の安全な使用の推進を目的とした巡視を毎月実施しています。

11月25日を含む1週間は国が定めた「医療安全推進週間」とされており、当院では職員作成の川柳やポスターを院内に掲示することで、患者さん等と共に安全意識を高めています。

医療機関や学会等が、それぞれの特徴を生かしながら医療安全の質を高める活動で、当院では危険手技の安全な実施等を目標に活動しています。

医療安全活動の報告、事例分析をして講じた安全対策、今後の目標等をまとめた冊子を作成し、各部署へ配布・周知することで意識向上に繋げています。



患者さんへのお願い

医療(行為)は、利益と不利益を踏まえたうえで判断される「患者さんの自己決定」に基づいて行われるものです。その実現のためには、患者さんの十分な理解が必要不可欠ですので、医師をはじめとする医療従事者からの説明は、納得するまで聞いていただきますようお願いいたします。

名市大病院のチカラ Vol. 3

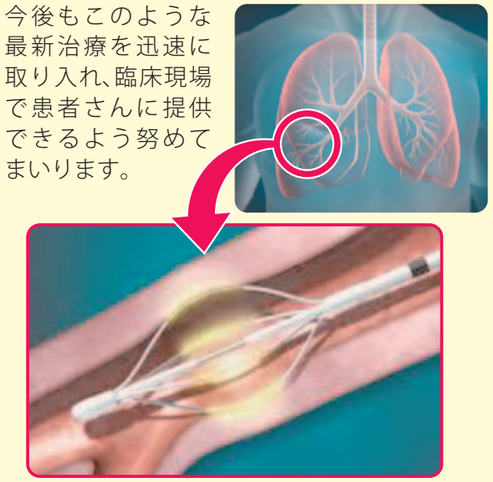
呼吸器・アレルギー内科　成人喘息の最新治療「気管支サーモプラスティ」を導入

呼吸器・アレルギー内科
新実部長

気管支サーモプラスティは、喘息の薬をしっかり使用していても、症状が出てしまう成人喘息患者さんに対し、症状をやわらげるために行われる治療法です。従来の薬物治療と違い、麻酔下で内視鏡を使って治療します。内視鏡の先端から電極付きのカテーテルを出し、気管支の内側を65度に温めることにより、厚くなった気管支の周りの筋肉(平滑筋)が薄くなり、気管支が狭くなるのを抑え、喘息症状を起こりにくくします。世界では4,000人以上の患者さんが本治療を受けており、治療後は喘息発作や救急受診の頻度が減ることが報告されています。

日本でも平成27年4月から本治療が保険適用になり、当院でも積極的に実施をしています。

今後もこのような最新治療を迅速に取り入れ、臨床現場で患者さんに提供できるよう努めてまいります。



気管支内にカテーテルを挿入し、
先端にある電極で、気管支の内側を温めます

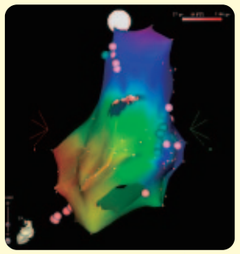
循環器内科　最新システム「ＣＡＲＴＯ(カルト)」を活用し難治性不整脈を治療

循環器内科
大手部長

「心臓カテーテル」という言葉をご存知でしょうか。カテーテルとは、血管内に通すことができる柔らかく細長いチューブ状の医療機器のことです。これを用いて冠動脈を造影し、狭心症や心筋梗塞の診断をしたり、狭くなった血管を風船やステント(網目状の金属製の筒)で広げたりします。

そのカテーテルを利用する治療法のひとつに、様々な難治性不整脈に対して行う「アブレーション手術」があります。この手術は、電極付のカテーテルを心臓内に入れ、不整脈の原因となっている部位を焼灼して根本治療をめざすというものです。当院では、この手術に対し「CARTO(カルト)」という最新システムを導入しました。このシステムを導入することで、電極付のカテーテルが心臓のどこにあるかがより正確に把握できるようになったため、これまで以上にスピーディー且つ精度の高い手術を行うことができるようになりました。

医療は日進月歩です。今後も常に患者さんに寄り添った医療をお届けできるよう、診療科一丸となって取り組んでまいります。



CARTOシステムを用いて作成された心臓の立体画像
この画像を見ながらアブレーション手術を行います

心臓カテーテルの手術風景

お知らせ

転びにくい歩き方・杖の使い方

リハビリテーション部

高齢者など体が不自由な方の転倒は骨折が発生しやすく、それが原因で寝たきりになってしまうなど、ＱＯＬ(生活の質)の低下を招きやすいと言われています。常日頃から正しい歩き方・杖の使い方を意識して、毎日元気に過ごせるよう意識していきましょう！

歩き方

1 足は肩幅に広げましょう。
2 踵(かかと)から足を着くように心がけましょう。
3 軽くつま先で地面を蹴って、前にすすみましょう。
4 足元ばかりを見ずにできるだけ前を見て、腕を振って歩きましょう。

杖の使い方

1 杖は痛みのある足や力の入らない足(以下、「不自由な足」という。)の反対側に持ちましょう。
また、杖は自分の斜め前につくと良いでしょう。
※使いにくい場合は、不自由な足の側に持っても結構です。

2 杖は手首の位置にグリップが来る程度の高さに合わせると持ちやすいでしょう。
(軽く肘を曲げて持てる高さ)

3 階段昇降の仕方
①登る時：不自由な足の**反対側**からから登りましょう。
②降りる時：不自由な足から降りましょう。
※手すりがあればつかまるようにしましょう。

市民公開講座・セミナーのご案内

市民公開講座

日　時	平成28年3月27日(日)　13時30分～14時30分
場　所	第一会議室(病棟・中央診療棟4階)
内　容	よりよい「くすり」が生まれるまで 臨床試験管理センター　荒木 寿江 難治性潰瘍性大腸炎・クローン病克服のための新たな挑戦 ～新規治療薬臨床応用を目指して～ 消化器内科　講師　谷田 諭史
定　員	100名(先着順)
担　当	臨床試験管理センター

患者情報ライブラリーセミナー

日　時	平成28年2月25日(木)　14時30分～15時00分
場　所	患者情報ライブラリー(病棟・中央診療棟地下１階)
内　容	悪性リンパ腫の治療と副作用対策 血液・腫瘍内科　講師　楠本 茂
定　員	40名(先着順)
担　当	患者情報ライブラリー

事前申込不要・費用無料ですので、どうぞお気軽にご参加ください。

ご寄附のお願い(さくら基金)

病院事務課

当院では「さくら基金」を設置し、寄附のご支援をお願いしています。
皆様から寄せられた寄附金は、診療研究、人材育成、医療環境の充実などに活用させていただきます。
当基金の趣旨をご理解いただくとともに、皆さまのご支援をお願い申し上げます。

問い合わせ先
病院事務課病院経営係
TEL 052- 858-7113(直通)
※インターネットもご利用いただけます。

発行／名古屋市立大学病院　発行責任者／院外広報誌編集会議（年４回発行）
〒467－8602 愛知県名古屋市瑞穂区瑞穂町字川澄１ TEL 052－858－7116(病院事務課)

このリーフレットは古紙パルプを含む再生紙を使用しています。

当広報誌へのご意見・ご感想をお寄せください。E-mailは hotnews@med.nagoya-cu.ac.jp まで！

平成28年2月発行